

平成9年11月5日

株式会社和光
常務取締役 羽鳥 治久様

E&C 703 渋谷
倉嶋 果林

拝啓

「バリマクラーは銀座から」のイベントも幕を閉じ、銀座の街はクリスマス一色ですね。銀座のショーウィンドウには、歩いているだけで不思議と気分を高揚させるような魔力めいた魅力がある様に思いました。

この度は、なんと素晴らしい銀座の中心に、手話劇場というショーウィンドウを実現し下り、本当にありがとうございます。8月の打ち合わせの時に、谷川様に同行して倉嶋です。

この様な言葉で表現しては良いのか、わかりません……。

初めて、あのショーウィンドウを目にしたときの感動は今でも忘れません。普段、私達、聴覚障害者が、使っている下品な(?)手話に比べると、和光のショーウィンドウには、まるでマジックにかかっているような上品な手話とあり、思わぬ魅力も感じました……。

12月のグリーンとのコントラストに、ゴールドの装飾もあって、夜のライトアップで更に美しく輝く。ショーウィンドウに、あんな魅せられたいものは、ありません。

期間中、何度も足を運びました。印象に残るシーンが、いくつかありました。

観光客の方は、アメリカ人の家族連れ。
与太の女の子が、Tシャツと同じ紫のワンピースを着て、ショーウィンドウをまわし、写真を撮っていました。
又、気持ち良く、酔って帰りは、ショーウィンドウを見たい所、お連れした女の子2人が、「私、このショーウィンドウが好きです!」という会話をしている。一緒に建聴者が、教える。思わぬ踊りだすような嬉しい気持ちでいっぱいになりました。
別日には、E&C 703 渋谷のメンバーと記念撮影をした時の、黒人のカマリアが来て、写真を撮りたいと頼まれました。その時、カマリア2人と、お話しして、「これは日本の手話で「愛してる」という意味なんです!」と「アメリカの手話(国際手話)では、なんと反対です。I love you! と...」(実演)

このコミニケーション、和光のショーウィンドウ前では、繰り広げられてきました。その他、あのショーウィンドウの前で、一体、幾つドラマが展開されたか、と考えると、想像もつきません。夢にも思わぬ実現……本当にありがとうございます。

私の人生の中で最高の思い出とさせていただきます。
これからも素晴らしいショーウィンドウを魅せて下さい。

毎回、楽しんでいただいています!
寒くなりましたが、お身体には十分、留意して下さいます。御自愛下さい。

感謝の気持ちをお伝えし、筆をとりました。
時はあらず。

かしこ。